

令和元年度 交通安全作文募集
優秀作品集

交通安全



令和元年度 山口県交通安全ポスター最優秀賞作品
(防府市立 華浦小学校1年 山田莉子さん)

点検整備を受けた自転車に乗りましょう。

- 自転車安全整備店で点検・整備を受けると、その証としてTSマークが自転車に貼付されます。年に1回は点検整備を受けましょう。
- TSマークには、賠償責任保険と傷害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いており、平成29年10月からは、賠償責任補償限度額が5,000万円から1億円に倍増されました。もしもの時に安心です。
- 自転車安全整備店章のあるお近くの安全整備店へご相談ください。

赤色TSマーク付帯保険の補償内容と支払い対象

補償内容	傷害補償	賠償責任補償	被害者見舞金
●死亡	●死亡	●入院加療15日以上	
●重度後遺障害 (1~4級)	●重度後遺障害 (1~7級)	以上傷害	
一律 100万円	一律 1億円	10万円	
●入院加療15日以上の傷害			
一律 10万円			

赤色 TSマーク



自転車安全整備店章



交通安全年間スローガン

◎山口県

住みよい山口 いつも心に 交通安全

◎全国

☆運転者（同乗者を含む）へ呼びかけるもの

○スマホより 横断歩道の 僕を見て

☆歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもの

○夕暮れの 一番星は 反射材

☆こども（中学生以下）へ交通安全を呼びかけるもの

○しっかりと 止まってかくにん 横だん歩道

はじめに

「住みよい山口　こゝも心に　交通安全」交通事故のない、住みよい山口県はみんなの願いです。このためには、県民一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、そのうとを習慣づけることが何よりも大切です。

この作文集は、令和元年秋の全国交通安全運動の一環として、各警察署、各地区交通安全協会及び各教育委員会並びに各学校のご協力により、小・中学生から寄せられた一、二三點に及ぶ交通安全作文の中から優秀な作品を選び編集したものです。

こどもの立場から見た交通安全についての貴重な意見や考え方が素直に述べられています。

交通安全意識の普及・啓発と交通事故の防止に役立てていただければ幸いです。

令和二年一月

一般財団法人 山口県交通安全協会

会長 久保正人

もくじ

小学校の部

最優秀

○ 一人一人ができるたいさくを

○ 時間と交通ルール

優秀

○ きいろのこうつうあんぜん

○ 交通安ぜんのルール

○ 「交通指導員の方と私」

○ 一人ひとりの心がけ

佳作

○ さいきんよくみる

あたりうんてんについて

山口市立井関小学校
柳井市立柳井小学校
五年

瀬山直史
片岡恵

田布施町立麻郷小学校

山口市立湯田小学校

山口市立良城小学校

美祢市立秋吉小学校

三好翔心
宇山雄翔
児玉悠翔
前田日葵

岩国市立平田小学校

三年

六年
六年
六年
六年

宗東聰志
前田日葵

- こう通あんぜんについて
○ ずっと長生きしてね、おばあちゃん！
○ 事故を減らすために考えたこと
- 令和元年度 交通安全ポスター最優秀賞作品

中学校の部

最優秀

- 「いのちとり」から命を守るために

周南市立秋月中学校

三年

森 本 あかり

優秀

- 交通事故ゼロの令和の時代へ

山口大学教育学部附属山口中学校

三年

原 田 花 音

- 「交通事故にあって」

山陽小野田市立高千帆中学校

二年

日 吉 悠

佳作

- 安心安全の暮らしへを目指して

防府市立小野中学校

一年

重 田 彩 葉

- 高齢者運転の危険性

美祢市立大嶺中学校

一年

中 村 叶 舶

周南市立富田東小学校

三年

松 本 智 憲

光市立浅江小学校

六年

山 口 智 世

萩市立椿西小学校

六年

伊 東 倫 世

小学校の部

最優秀

一人一人ができるたいさくを

山口市立井関小学校

二年 片岡 恵万

毎日、一コースでは、全国でおこった色々な交通事故をほりほりしてくる。とくに、

大きな事で頭このじつこののは、車がほいく園じのれにつつこんだ一コースだ。わたしにも、5才と2才の弟がいるので、弟くらこの小さな子どもがひかれたんだなと思つて、びっくりした。うんこんしていた人は、左右をちゃんと見ていたのだわつか。

わたしの通学路の歩道の細い道が、わたし

はおもなこと思つてこる。通学している時が、ちょうど通きんの時間だから、車が多い。できるだけ歩道のましを通りよつにしているけれど、わたしの歩いている所をりそりを車が通ることもある。ほいく園じの一コースを見た後、もしわたしの通学路であぶない車がつづこんできたり、み動きできなじだらうなと思つてこわくなつた。こづり自分が氣をつけてしまも、車が氣をつけてくれなかつたり、事こがおきてしまつ。

わたしはせがひくので、車に吸つかれにくふと思つてこる。だから、クラスのみんなは、色いろなかわいこがらのかさを使つているけれど、一人だけ一年生の時から黄色いかさを使つてゐる。このように、自分からできるたいさくをするのも大切だ。

来年は、わたしの弟が一年生に入つてくれる。弟は、ちよろちよろ動くので、交通ルールが

まもれるか心配だ。そこで、もし近は、休みの日に近くの道路に弟と一緒にさん歩に行って、車をよける歩き方やまち方などを教えてじる。

また、わたしのすんでじる地べには、大きい交差点に、見まもりたい人が立ってくれてじる。雨の日も雪の日も、学校がある日はかならず、朝早くからみんなを見まもつてくれる。お母さんに聞いたり、やこじに通る高校生たちが通りすぎまるまで、8時すぎまであつとはたとふえを持つてじってくれるわいだ。見まもりたじの人は、あじこじなと思つ。このように、車をうんとんする人、歩く人、地じきで見まもる人のそれぞれが、自分にできることを考えて実行することだが、交通事故をふせぐために大事だ。

一回でも交通事故がおきると、事こにあつた人だけでなく、つんてんしてじた人や、家

族などたく山の人がかなじて思つをする」とになる。だから、一人一人が気をつけて、交通事故のない世界を作つてじきたい。

時間と交通ルール

柳井市立柳井小学校

五年瀬山直史

ぼくは、夏休み前に、とんでもなじことをじでかしました。

陸上の練習がある日、ぼくは、友だちの家に遊びに行つてじました。ゲームが樂しくて、む中になつてじました。5時になつて、けいだじのアラームが鳴つたけど、「あと少しだけ、あと少しだけ……。」と思ひながら、ゲームを続けてじました。そして、はつと気がつきました。

「お母さん、おうちれるー。」

と、ぼくはあせって、自転車に飛び乗り、急いで家に帰りました。練習におくれるかも知れないと不安になつて、もうスピードで自転車をこじました。

家の近くまで来ました。这儿には、信号が無い横断歩道があります。这儿を、ぼくは、自転車からおひるいともせず、また、左右の確にんもせずに、そのままのスピードでつつきつてわたりました。ぼくには、左から車が一台来てくるのが、全く見えてこませんでした。ぼくが帰つてこないから、心配で外に出ていたお母さん、それを見て「あつ、ひかれやるー」と思つたのです。ぼくは、運良く、車と車の間をすりぬけたのです。その後、お母さんにすくべおひれました。そして、ぼくがやつたことには、たくさんのあけんなことがあつたことを知りました。

まあ、ぼくが大ケガをするゝほど。歩け

なくなつていたかもしないし、死んでいたかもしません。家族や友達がとても悲しむと思います。お母さんは、車の運転手さんにも家族や友達がいる事、その人たちも悲しむところを話してくれました。

次に、ぼくが加害者になつていてもしないところです。その横断歩道の角にはたて物があつて、左から歩いてくる人が見えません。もし、おばあさんが歩いて来てぶつかつていたら、転んで大ケガをさせてしまつたり、死なせてしまつたかもしません。また、ベビーカーをおしてくる人にぶつかつていたら、赤ちゃんにケガをさせてしまつたかもしません。同じように、自転車に乗つた人が左から来ていたら、おたがいに大ケガをしていたかもしません。

交通事故を起すところでは、たくさんの人達に、つらく悲しい感じをさせるとこう

「どがわからせつた。『せへ、時間をかうなかつたことだ。今回の一番の原因だと思つまし。アラームが鳴つてあぐに帰つてじたり、自転車でもスピードを出ねなくてよかつたし、あかるいとせむかつたと思つます。』気持つことにとりが無こと、交通ルールを知つていても守れなくなる、ところとがわからました。これかひせ、約束や時間、交通ルールを守つて、交通事故にあつたり、起こしかねなこきかんことをしなつてひつて心がけたいですか。

優秀

田布施町立麻郷小学校

きこくのうひあんぜん 一年二好心

たゞれこのくらめのなじるおおせなびつりのよじを、わたしそれにあけていたじがつりくらわせ。おおきなおとのトライシクや、はやくスピードのバイクがけいをとおるとせわたしそれがドキッとしたよ。おかなわせ、「せつりをとおつよー」

と、こつせこまゆ。わたしそれただけはしつりをとおつし、おをつかひがつりくらきます。

あゆひ、おかねせが、がつりくらわせわたしをしゃしことつみせてくれました。しゃしこはわたしのとなり、おねが

なトライックがひつてこまつた。わたしがそのしゃしさをみて、じどうとのかいだがねこで、この車をひいてこまつた。れいとトライックのひそかせかわいのよくなじんだりうなあと、ねむらまつた。

ルート、もう、ねむらのやうにのしゃしさをみせもつた。ねむられこめ、ねむられこのおばあちゃんのせなしあつてこまつた。

ねむらのやせ、ねむら、じつてこしゃひのひこたかど、ねむらがおとなになつてから、じごとく、ねむらがかり、ねむらくまつて、じてこしゃほれなつたやうだ。

そつて、こののかかくをあぬじてこたとせん、べるおじひかれたひとがおつたねいじか。

わたしが、ハッとしてまつた。ねばあちゃんは、にしががつて、ねむらくまつたから、きりとべるおかりみえなかつたんだーと、ねむらまつた。

おとひれこま、かひるとひ、おつづくべれまつた。

こつわせたしせ、れこゆのせひつかうりてこまつた。れは、べるおかり、もくおとれど、れわまつた。ぬぬのうせ、れこゆのかわをれつまわ。トライク、べるおかりもくおとれむ、トリ、じどう車じどう車、トライクじどう車、おわいじどう車ねいじ。

わたしが、トヨシのくわせをけつけたおひじや、なにか、れこゆのくわせをけつけたおひじやとおもつてこまつた。

交通安ゼンのルール

石川市立湯田小学校

二年 宇山 雄翔

まへせ小学校二年生だ。うちには小学校で、車教室がおつまつた。今までは、皆へ

時の交通ルールは留つたことがあるけれど、自転車ものれるようになったので、自転車のり方、道の走り方、そのほか気をつけることを自転車教室で教えてもらいました。

ぼくの家のまわりは道もせまいし、カーブもあるため気をつけなければいけないことがたくさんあります。車にも気をつけながらスピードを出しきなこよにし、こつでもブレーキをかけるように、しっかり前をむいてのりなければいけません。頭をまもるためにきちんとヘルメットもかぶります。そして、今どは、歩いている人にも注意しながらのりなければじかません。

大きくなつてからと、だんだん遠くにいるようになり、歩きから自転車、そして大人になつたら車のうんてんをするかもしません。そのときどの立場になつても同じなの

は、しつかり交通ルールをべん強してまずは自分が気をつけなければじかないとこり」とだと思ひました。歩く人のルール、自転車・自動車・バイクの人のルール、バスや車につけよにのる人にむかへるもあると思つます。

「まあだらじょりつらだらり。」とか「相手が気をつかってくれるだらり。」など心が大きなじこにつながると思つます。

もう一つ大切なことは、毎日学校に行く時地じきの方が、ぼくたちを見まもつて横だん歩道やきかんな場所に立つてくださいます。そういう人たちのおかげで、安心して安全に学校に通つる事ができますので、

「ありがとうござります。」の気もちでじつぱいです。

このちをまもるために、これからも交通安全ゼんに気をつかつていただき。

「交通指導員の方と私」

山口市立良城小学校

六年 児玉 悠

「一丁目で歩いてきた児玉やんだね。」
と声をかけられたのです。

それを聞いた母は、

「田舎の」となんでも知つてゐるんだね。」

とおどろいてしまった。

「おせよひゞわこまか。」
と大きな声であざわらをしまか。すると負け
けずに大きな声で、

「おせよひ。今田わがんばってね。」

と交通指導員の方が返事をしてくれます。

これは、私が六年間毎日通つて来た朝の通

学路の風景です。

雨の日、髪がふつてしまふと、または四月
の入学しだされからで不安ない」とがたくさん
あつたときわやせこく声をかけてくださいま
す。

私が幼稚園、姉が小学校四年生のとき現在
住んでるいの地区に引っ越ししてきました。
登校初日の日、交通指導員の方に姉は、

母は、子供達を見守つていただきてるよう
な気がして安心したのです。

また、いつも一緒に往つてくる友達が休ん
で私が一人で登校してくるときは、
「今日はお友達休み? わみしじナジがんばっ
てね。」

と心配をしてくださいました。

このように、だれがどの辺りに住んでるのか、
病気の子じもがじるのかつも飯を配つてく
ださいるのが交通指導員の方です。

朝の通学路は大変混み合つてしまます。学校
に向かひたぐさこの子供達はむちむち、会社
に向かつ車の数も相当なもので。大変混雑

しつこい交差点もあります。仕事場にはやく行きたくなるかスピードをだしてくる車も時々見かけます。

そんな車に、

「スピード落っこちてくださいねー。」

と大きな声で注意をしつこいます。

私達の命を真かんに守つてくれているんだなと感じました。

一年生は、せやべ学校に行きたくて信号を見ながらわざわざ立つてます。あんまり

「信号は青にならなことわたれなじんだよ。」

いやわざわざ教えてきました。

時によく、母にはやく指導してくれます。だせこまゆ。こんなにも温かい指導は、私のおじいちゃんやおばあちゃんを思い出させてくれます。おじいちゃんが入院してしまったとき、自分の心配をしないといかなうのに、元のところのやうな車に乗りました。長

「車球がんばつとるか。」「かわるどりか。」

と私の心配をしてくれました。私達の命を大切に守つてくれてこられる交通指導員の方と同じように感じました。

交通指導員の方達は、私が一年生のときから、これからもずっと私達を守つてくれます。だから私も将来同じように樂しくおこなつひきをしながら、地元のお金を取りたことになりました。

「ねむよつぱれこまわ。」

今日もお敷の町に運びのめあこひつの声が鳴りひびいてます。

一人ひとりの心がけ

美祢市立秋吉小学校

六年 前田 日葵

私は、今年のゴールドソンワイヤークにおまめかりこのおひのある駒崎に行きました。長

崎へ向かう途中の高速道路で痛ましい交通事故を目にしました。

その車は、横転していて誰が見ても分かる大変な状態でした。事故を起こしていたのは、一台だけで周りにはパトカーや救急車が止まっていました。私は、その場を通り過ぎた後も車の中でのことやお母さん達と事故について話していました。おばあちゃんのおうちに着いて、テレビをみるとニュースで先程の事故が流れていました。内容はその車に乗っていた小さな男の子が亡くなつたというものでした。

私は、この事故があつて、すゞ悲しい気持ちになつたし、交通事故とは本当にこわいものだなあと思いました。一瞬にして、一人に一つしかない尊い命をうばつてしまふ入れ難い事故もあります。ほんの数十秒間に起きたのです。私は、この事故で小さな男の子の大きな、尊い命が亡くなつたことにす

ごく悲しくなりました。

大きな事故から大事に至らなかつた事故まで、数えきれない程至る所で事故は起きています。「スマホ」を見ていてまわりを見ていたかった、「じねむり運転」「飲酒運転」「飛び出し」など大人から子どもまでにある様々な原因が挙げられます。交通事故の根本的な原因是、「人間」にあります。スマホを見ながら道を歩くことや子どもの飛び出しなど問題になつてゐることが数多くあります。が全て人がしてゐる」となのです。しかし、「原因」の対義語が「結果」である様に、結果を出さると、解決するのも「人間」です。人は原因を生むことも結果を出すこともできます。

交通事故を減らすためにはどのようなことをすれば良いのか。やはり、一人ひとりの心がけです。心がけとは、横断歩道を渡る時には、右や左から車はきていないかなと確認し

たり、運転手さんに見える様にしつかり手を

挙げて渡つたりあるところ」とです。当たり前ではないかと思う人もいると思します。しかし、当たり前のことだからこそ気を付けて、丁寧にしなくてはいけない」と感じます。子どもから大人までみんな交通安全に関わっています。こつも、となりにいる家族みたいな存在のかもしれません。車を運転する大人、横断歩道を渡る子どもと、関わり方は違うので、心がけることも違います。しかし、みんながみんな心がけをして、相手を思いやることで、つながることもできるのです。学校の上下校でお世話をになつてこられる方々がいます。「安全パトロール隊」のみな様や警察官の方です。交通安全だけではあります、私たちが安全に・安心して上下校ができる様に見守つて下さつてしまふ。このように見守つて下さつてこられる人がいる、ところ」とは

とても幸せなことだなあと思します。

私は、これから特に横断歩道の渡り方を気を付けていきたいです。渡る時は、止まってじる車の方をしつかり見て、注意したいです。まずは、今の自分を振り返って、新しい自分をつくっていきたいです。

田のあたりにした事故を受けて、ニュースを見た人、その場を通った人は私の様に悲しい気持ちになつたと思います。しかし、今はこの事故が教えてくれたものがあるんだ、この事故がなかつたら自分は変わなかつたんだと思います。コーラルテンウェイークに起きたあの事故は、私たちの今後につかすことができます。一人ひとりの「心がけで」のような痛ましい事故を減らすことができると思います。まあ、今から交通安全への心がけを考えてみてはいかがですか。

佳 作

さいきんよくみるあおいつんて んについて

柏崎市立平田小学校

二年 宗東 聰志

「ほくかせこわいよになつて」と一コースは、トライアルのあむづりそとんのことです。トレービをつかたり、もづくゆごぐるまがせかんなうんてんをしてくる。ほくせ、おにじちゃんのやせうつじのふじのるときがたまにねりおむ。おかねてくせ、うんてんがあんまつじゆうじやなこのでしへせこです。スポーツカーがうしろからアドレースピードでぞれ、あおられたことがあります。ともじわかつたです。170キロペルソナだとおもいました。どうしてそんなにスピードをだす

んだろひー。ほくせ、ほかのひとにぬづわくをかけない大人になりたうです。

わくわくとつきこになる」とあります。じんしゃうんてんがなかなかへくなつことです。ねむをのんだり、ぐるまをのらなうことです。ねむをのむかし、ぐるまをのむかをのんで

じこをおこしてこのテレビがなくなつたそ�ですか。ほしの上からぐるまがとおむか、おぼれてなくなつたと、わわおした。とくつかわじやうとおもこました。みんなが、ほか

のひとの「」をおもこやつてねむつあつて、じこのなじまちになればうつなとおもこまわ。

「いつ通あんぜんにっこり

周南市立富田東小学校

二年 松本 憲

つかだか。山つせりまつて、らだんあおひで
あこごませる。わいぢどりやつたら右左右を
むこう手を上げてわたる」とがでれるかを考
えます。

わたしのねいじとせ、こつゆせじくへえんか
りかえるとせ、いつふくしきこめか。だから
おゆわんをぬかしきはしつのかえつてしおり
とせがあります。

たとへば、一つ田せトボシがくへわた
る道にせしぞりにメガホンをひかし、
「ねいだんほ道をわたるとせ、右左右を見て
手を上げてわたりまつとい。」

のねいじすればことと思ておる。

ねいだんほ道のなじ道は、「あらなじ。」と
か「よく見てわたる。」とかせかんをつりか
るかんせんがあれせじことと思ておる。
道に「右左右を見て手を上げて」といふべ
くせつ書こしおかげことと思ておる。

いつ田せ、いつ通あんぜん教しつを作つて
す。

わたしが、いつ通あんぜんにっこり考えま
した。考えたのがおうだんほ道をわたるとせ
に左右を見て手を上げてわたつてこいるかど

こべりとせ。わたしが、ほくへえんのとせ
はまづ年いつ通あんぜんにっこりのぐんきよ
うがありました。かくわつの人にもマナーをお

してからいました。小学校でいう通のじゅうつけをしたかったと思われる。そしたらみんな一人一人がこしれど思いました。

「もんじんがいり通マナーをまわつたり、きりとじりせなぐると思つます。わたしのおとうじも、まだ小さじかれどおしだらわかつてくれると思つます。みんなガルールをまわるよじにこつけをして、こわさぬにあわなじょうひなねじと懸つます。

ずいぶんもつてね、おばあちゃん！

光市立浅川小学校

六年 口 智

「氣で長生きしてもらひたな、聞いたことがないから、シーテベルトを絶対しない。」
「田舎、最近夜が涼しくなりて、夕方にバックだけ持つて買い物に行くのはやめて。けい光反射バンドや、タスキなどを肩にかけて行ってねー理由は、反射材に車のライトが当たると、反射材が光り、車を運転している人だから、「トントンめめめめ」とつ

ねまわりやん、ねゆさんがあがむかひてかかひ、ゆ田、ぼくのねどりを見てられてありますといへ。なんおばありやこい、ずっと元

して生きました。おだりせん、聞いたことがないから、シーテベルトを絶対しない。

「田舎、ねゆもこの車で、ぼくたちと一緒に買って物に出かかるとやし、おばあちゃん

がよく、後の席でシートベルトをしてこんなときがあるよね。ぼくは、それがおじい心配なんだよ。なぜなり、ぼくもシートベルトをしめてなことかがあったけど、そのせいで座席にぶつかり、たんじがでれ、そのままじやな感じをしたけどあるんだ。おば

あちゃんには、そんなじやな感じをさせたくないから、シーテベルトを絶対しない。

「おばあちゃん、おばあちゃん！」

「歩くことが危険だから」とか「交通事故の率がぐんと減るんだよ。おばあちゃんに歩くことをしてほしくないから、絶対してほしくな。

三つ目は、一人で歩いて買い物に行くときに、車がいないからといって、道の真ん中を歩くのはやめてね。音で分かると車の音が最近は、音が出ない車（電気自動車）が出始めたことがあるんだよ。だから、おばあちゃんにも、歩くときに気を付けてほしくな。

この三つのことを、いつも気を付けてくれたが、ついになくな。

また、今のことば、おばあちゃんへのお願いだったんだけど、本当に、全国のおじいちゃんおばあちゃんに、シートベルトを付けることや、反射材のタスキを付けて夕方買い物や散歩することや、ちゃんと歩道を

歩くことなどを気を付けてほしくな。わざあると、全国の事故が減り、交通安全が守られるようになります。

また、おべつたち子ども、おじいちゃんおばあちゃんと事故にならないように、自転車で近くを追いかかずとせい、ベルをやせつべ鳴りしたり、一緒に車に乗るとせい、「ねむおじいさん、シートベルトをせいやあ。」などと呼びかけたりして、少しでも交通事故を減らしていくのがんばりたことと思うよ。

おじいちゃんおばあちゃんに 대해、おじいちゃんおばあちゃんに 대해、おじいちゃんおばあ

ちゃんたちは、もう何十年も同じ道を通り慣れているから、つこ左右の確にんをかんたんに済ませちゃうことがあるのは仕方ないよね。だから、車を運転するの方があつと気

を付けてお出でにならなかった。

道路をわたるのも、おじこりやんおばあちゃんたちは時間がかかるよね。だから、ちょっとおひきをして待つてあげてほしくんだ。自分のおじこりやんおばあちゃんにかかるようになった。

やうしたが、せつと日本中から、おじこりやんおばあちゃんたちの事故がぐっと減ると思うんだ。

これからも、みんなで気を付けていけたらいいなと思うよ。そして、日本中で交通事故のを田指してもらわね。

最近高齢者の交通事故についての「ニュース」を聞いたり実際に交通事故を起こしあうな車を見たりすることができました。そういう事故が多いので私はもう一度交通安全について考えてみました。

私達はよく先生や親に交通安全についての話をされます。えん石にはのぼりなどと、横断歩道では手をあげてわたること、自転車はヘルメットをかぶることなどです。でもはずかしくて横断歩道で手をあげることができないけど、車の人から立つための行いなので、ちゃんとこころと感じました。私達も、交通ルールを守つて行動するといふことで事故から身を守る事ができます。

事故を減らすために考えたこと

萩市立椿西小学校

六年 伊東 榮世

でも交通安全に気をつけるのは、子どもだけでなく大人も気をつけないといけないので私は思っています。例えば、黄信号や赤信号なのに止まらない車や、歩行者だと横断歩道ではなこといろいろをわたつていろと/orを見ます。車だったら止まらなくて大丈夫だろいとうう軽い気持ち一つでたくさんの人の命をうばってしまうことがあります。歩行者だったひかれのような事故があつたり、車の人が全部悪いことになるからまりの人にも迷わずをかけることになります。運転中は軽い気持ちを持たずに運転してほしごです。そして、歩行者はあわんと横断歩道をわたるよにじてほしごです。

あと、高れい者の事故につけて持ちょう的なことを調べてみました。
『氣を失じ歩行者につつんだり、反射しん

経のおとろえで素早い反応ができる「ブレーキ」とアクセルをふみまちがえたり、視力が弱まることで周囲の状況が見えづらくなり適切な判断ができなくなったりする。また、認知症の人はじつむ何つかの症状が出ているそういう人は記おくからぬけ落ちたりあることもあります。そうなると、一時停止でも止まらずに直進してしまつことがあるなどです。

このようないとかり、起ころる高れい者の事故も多いため、最近は免許を自主返納する人が増えているやうです。確かに免許を返納すればもう運転するのもなく事故をおひきともなく少し事故が減つて良いと思つます。その一方で免許を返納することができない人もいます。例えば、交通に不便などいろに住んでいる人たちです。私の祖父母が住んでい

るといふのは、駅やバス停の近くですが、どちらも一日に数本しか走ってないそうです。さうには、近くに駅もバス停もない、病院やお店などへ行くのに絶対車が必要な高齢の者も多いところでは、返納したあの生活はどうしたらいのだろうと思します。そのためには、私達もどうして社会全体で考えていかなければならぬのではなかと思いました。確認したといふ山口県では、免許を返納した人にはタクシー料金の割り引きがあったり、一部のお店でこう入代金の割引きを受けたりのサービスがあるみたいですね。もっとこうこう支えんやサービスが広がれば良いなと思いまあ。

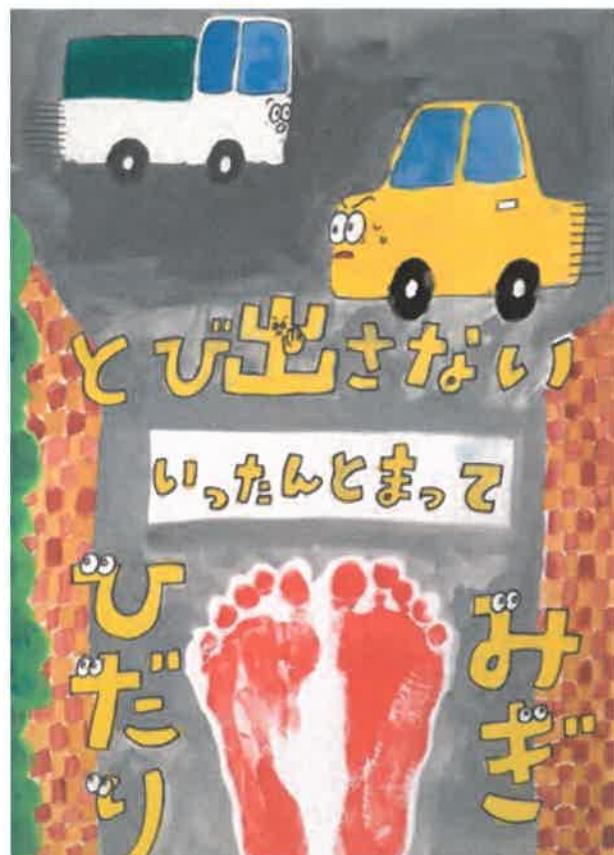
将来私が大人になつて車を使うとあは、ちゃんと交通安全を守つてみんなの命をせおつしてると思つながら気をゆるぬか引きこめて運転したいと思いまあ。

最後にいのよひなゝとに気をつかひ少しでも事故が起つたりなによつに、少しだも事故が減らせるよつた社会になればいいなと思います。

交通安全ポスター最優秀賞作品



宇部市立黒石小学校
2年 末富 桃果



岩国市立玖珂小学校
3年 藤井 心寧



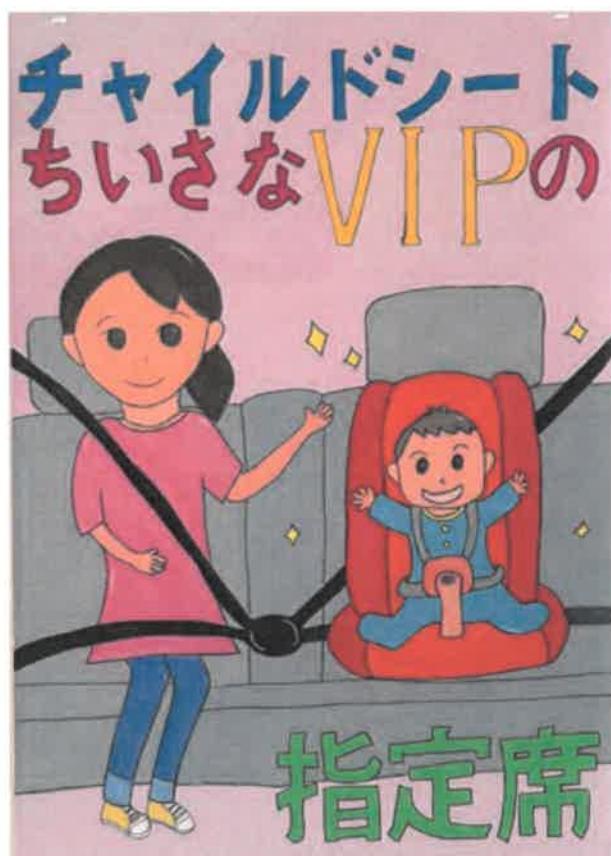
下関市立一の宮小学校
4年 綱本 七夏



長門市立仙崎小学校
5年 中島 幸那



宇部市立琴芝小学校
6年 藤井 莉子



岩国市立川下中学校
1年 中本美梨亞



美祢市立美東中学校
2年 桑羽 芭乃



宇部市立西岐波中学校
3年 川口 実南



山口県立宇部高等学校
2年 吉國ひまり

中学校の部

最優秀

「いのちとり」から命を守るために

周南市立秋月中学校

二年 森本 あかり

者になってしまった場合とお年寄りが被害者になつてしまつ場合があります。実際のお年寄りの交通事故は、自動車ではアクセルとブレーキの踏みまちがいをしてしまつ、判断が遅れるなどがあります。歩行者では信号無視や反射材をつけずに夜の散歩をして自動車に自分の存在をアピールできていないなどが原因としてあるようです。このまま交通事故を増やすわけにはさせません。

私には世界で一番出来たくない、とりがります。それは「いのちとり」「いのち」とりは全て人の命をいつもねらつています。そんないのちとりにみんなの大切な命を奪われないようになるためにも日頃から交通安全に気をつけることが大切だと思します。

一つ目は少しでも体のおどろえを感じたらめにも私は二つのことを提案します。

一つ目は少しでも体のおどろえを感じたら自分から運転免許を返納することです。私の祖父は私がまだ幼稚園に通つていたころ、バイクと普通自動車の免許をもつていました。普段は優しくておだやかな祖父だけど車に乗ると別人になつてしまつように感じています。ものすごく安全運転の車が前をはいつ交通事故、その薬の中にはお年寄りが加害

ていたら急に加速して抜かしていつたり、細い道をぐんぐん進んでいたりしていて私は正直少し怖かったです。そんな祖父もいつの間にかバイクに乗らなくななり祖父の家からバイクがなくなっていました。祖父はそれまでバイクをすこじく大切にしていたので驚きましたがそれ以上に安心しました。私と同じように運転する誰かをおもい心配する家族はたくさんいると思います。ドライバーは他人や自分の命だけでなく家族のおもいも背負っているとじうことを忘れないでほしと思いません。それほど大切なものを背負うドライバーですが怖い怖いのちとりはずっとねりっています。ひとつとあるドライバー自身がいのちとりと化してしまったかもしれません。それを防ぐためにも早めに運転免許を返納することを提案します。

一つ目は夜に散歩をしたり、自転車に乗った

りあるときは反射材をつけるといいことです。

反射材は暗い夜道でも自分の居場所を知らせることなどができます。私は日が暮れてから母と走りに行くことがあります。母も私も反射材を必ずつけるようにしています。ところどころ一度ヒヤリ・ハット体験をして反射材の大切さを知ったからです。私が反射材をつけずに暗い道を歩いていると前から車が来たので私は端によけました。すると車は私と同じ方に來たので驚いていると後ろから違つ車が通り過ぎてきました。それと同時に私の前の車も動き出し、私の前でキューッと止まりました。とても怖かったです。私と同じドライバーさんも驚いていたのを覚えていました。この経験から私は反射材をつけて自分を田立たせる」とはとても大切だと感じました。

夜間、車から歩行者が見える距離を調べてみると黒っぽい服の人には約二十六メートル、

明るい服の人は約三三ハメートル、反射材着用の人は百から百一十メートルだそうです。このことからわかるように反射材を着用することでの存在感をドライバーにアピールすることができ、事故防止に役立ちます。また、お年寄りの道路横断中の交通事故は自宅近くでよく起つてくるのです。なのでよく知つてじる道だからと安心せず、知つてじる道でも夜に歩くときは反射材を着用するべきだと思います。私の経験や調べたことからもわかるように反射材をつけることは事故防止につながり、このちどりから自分の命を守ることができるます。だから私は夜に散歩をしたり、自転車に乗つたりあるときには必ず反射材をつけるところと提案します。

三つ目は、お年寄りの方の子供世代、孫世代の人たちが近くに住むお年寄りに直接呼びかけることです。テレビやラジオ、インター

ネットなどの情報機器での呼びかけはたくさんのありますが、それらが全てのお年寄りの方の印象に強く残つてじるか考えるとそれだけでは難しいと思います。私は機械を通しての呼びかけよりも直接話したほうが心と心が通じあい、印象にも残りやすいく思います。また呼びかける方も自然と交通安全を意識するようになり、より交通事故防止につながると思います。みんなの命をねじつじのちどりもみんなが交通事故防止を意識してじたら手が出せないと感じます。だから子供世代、孫世代の人たちがお年寄りの方に直接呼びかけるところと提案します。

増えてじくお年寄りの交通事故を減らしていくためにもみんなが命をもつともつと大切にしてこの三つの提案を実行してくれたらいなと思います。そしてじつか交通事故がなくなければじこなと思います。

優秀

交通事故ゼロの令和の時代へ

山口大学教育学部附属山口中学校

三年 原田 花音

耳を疑つた。こつものように、家に帰つてテレビをつけると、私の目に飛びこんできたのは、痛々しい交通事故の様子を報道しているニュース番組だった。私はその規模の大きさに驚きを隠せなかつた。しかし、私が耳を

疑つた理由は、そこではなかつた。それは、同じような事故が毎日のように起きていたことだ。私は、なぜあつてはならない事故が繰り返されてしまつたのかわけがわからなかつた。

今年、私の通つてゐる中学校では、数多くの自転車に関する事故が起きた。幸いなことにけが人だけで済んだが、「事故」であることに変わりはない。その後、全校生徒で警察の方々による指導授業を受け、自分が被害者だけでなく、加害者になつてしまつ可能性があることを知つた。それから、私の学校での事故はかなり少なくなつた。私はこのような機

齡者の運転免許の返納が話題となつてゐる。私は、車だけで移動しなくても十分移動できると思つ。例えば、バスや電車などの公共交通機関を利用することができる。そういうこととで、二酸化炭素の排出量が抑えられたり、地域がさらに活性化したりと、まさに「一石二鳥である。このよつた意識の変化は、高齢者に限らず、今を生きる私達にとつてとても大切だと感じた。一方で、「子供」の意識は高まつているといえるだらうか。

会をもつと増やし、子供の頃から意識を高めておく必要があると思つ。

したがつて、私は限られた人達だけではなくより多くの人が交通安全に対して高い意識を持つことが、よりよい社会を築いていくための一歩になるとと思つ。

といふので、自転車や車を運転してみると、何を考えているだらうか。私の祖母は自転車に乗つていたときに、車と衝突して亡くなつた。家族を失うことの悲しみは、どんなに長い時間をかけても消えることはない。だから、私は今も自転車に乗る気になれない。同じことで家族に悲しい思いをさせたくない。

もちろん、自転車はとても便利な乗り物である。しかし、自転車は軽車両に分類されている、車の一種だ。急いでいるときや慣れている道でも、常に安全に運転していると自信をもつて言えなければならぬ。つまり、責

任をもつて、運転を楽しむことが重要である。

次に、私が最も大事にしているのは、危険を予知するところだ。私の学校では危険予知トレーニング、略して「K.Y.T」を実践している。これは、写真を見てこの後どのような危険が潜んでいるかを予測し、それを友達と共有するところのだ。友達と共有することで、様々な視点で考えられるようになり、生活の中でも常にアンストラクタを張り廻せるとができる。

私は、他にもメディアを活用して「K.Y.T」ができると思つ。あの日私が見たニュース番組のように、メティアには、見た人に大きな衝撃を与える力がある。その力を無駄にしないよう、私は過去の事故から何を学ぶことができるのか、自分自身にもう一度問い合わせが必要があるだろう。そして、生活の中で、同じような危険が潜んでいないか、意識してみ

よりと思つ。また、正確かどうかわからぬのに、被害者や加害者のことを決めつけるような身勝手な思考にしつらても、もう一度考え直す必要があるだらう。

事故を起こさないようである」と、事故から自分の身を守ることと、どちらも単純だけれど、あくまでも難しくことである。両方できるようになるまでは、かなりの時間がかかるかもしれない。

最後に、私がこの作文を書こうる中で感じたのは、交通事故が無くなつてほし」と思うこと、ただ一つだ。私一人の力ではどうする」とむづきなじけれど、それで諦めてしまつのは一番良くないことだと思つ。そのため、一人ひとりが安全な生活を心がけ、過去の事故の背景を知り、次の事故を防ぐ。この良い循環をつくりたい。そして、自分が行つてゐる悪い習慣に気がつかず、慣れて

しまわないようにして、日々後ろを振り返つて、悪循環をつくりぬくようにあむことも大切にしたい。

元号が変わり、新しい時代が始まつたとしている今、私達に求められてはどんなことだらうか。交通事故が無くなり、安心して生活できるようになる」とは、私達が様々に挑戦していきたための基礎になるだらう。大きな目標を実現するためには、まずは自分の生活から覗いておきたことと思つ。



「交通事故にあって」

山陽小野田市立高千帆中学校

二年 日吉 悠

僕と兄は小学生の頃、交通事故にあり、兄には後遺障害が残りました。

だから、僕は事故で体験した事などを書きたいと思います。

その日、僕たち家族が道端に立っている所に、アクセルとブレーキを間違えた車が突っ込んできました。そして、僕と兄の二人とも跳ね飛ばされてしましました。僕は脳しんとうで、兄は頭から血を流して、ぐつたりと倒れていた事を、後から知りました。母は状況が理解できず、ただ何度も僕たちの名前をさけんでいたそうです。

それから僕たちは、救急車で病院へ運ばれました。僕は数日の入院だったけど、兄は長

く入院していました。兄はケガがひどくて、病院に運ばれてすぐに手術だつたそうです。その前に医者から「頭蓋骨も骨折していて、脳もかなりのダメージを受けています。手術しても助かる可能性は五割で、命が助かつたとしても一生植物状態で意識は戻らない可能性が高い。」と言われたそうです。手術が始まつたのは夜だったけど、終わつた頃には朝になつっていました。なんとか手術は成功したけど、数日間、峠が続きました。

僕は先に退院できました。そして集中治療室にいる兄の所へ行き、初めて兄を見てショックでした。沢山のチューブや機械につながれて、体も全然動かないで眠つていました。

それからずっと意識不明なままで日にちは過ぎていきました。家族みんなで兄は絶対に意識を取り戻す！ そう言って励まし合いながら

う過ごしました。

僕は意識が戻るよに兄の好きなゲームの音楽を聴かせてみたり、兄の大好物のフライドポテトの匂いをかかせてみたり、両親は本の読み聞かせや、手足をマッサージしたり、反応はなくとも皆さんで兄に今日あつた事などを話したりしました。

そしてついに一ヶ月がたつくらいには意識が戻りました。本当に奇跡だと病院の先生も言つていて、皆さんで喜びました。その後リハビリの病院に転院するべりにになりました。

ある日、兄が外泊できることになつて事故以来初めて家に帰つてきました。一泊だつたけど、あの日の事は全く覚えていません。みんなで飯を食べて、ゲームをしたり、テレビを見たりしました。この前まで普通にしていた事が特別な感じがしました。今までの普

通の生活がどう幸せな事だったんだと思いました。兄の笑う声が懐かしくて、やつとひれで僕のいつもの家族が戻つて来たと思つました。

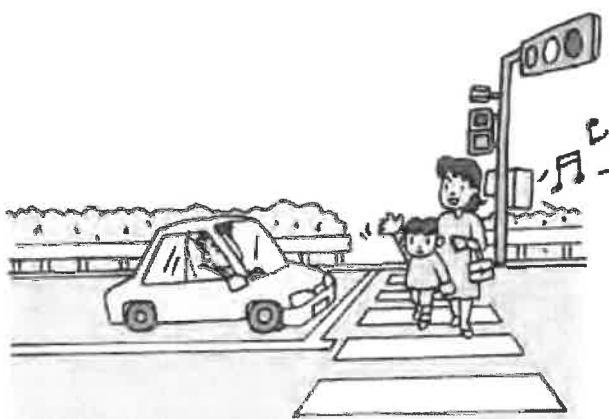
兄も病院でリハビリを続けて、やつと退院日がきました。僕は、これでいつもの生活にもどれる喜んでいました。だけど、思つていた以上に兄は元の生活に慣れるのは大変で、家族も皆さん協力しなければいけないと心に氣づきました。兄は、脳のダメージがひどくて、重い後遺症が残りました。脚はマヒでうまく歩けなくなつて、脳の機能もだいぶ失われてしまつた。記憶する事が難しいみたいで、さつもあつた事も忘れたり、新しいものを覚えたりする事ができませんでした。感情のコントロールもできなくなりました。すぐ怒つて物を投げたり壊したり、暴力をしたくなります。前の兄とは違つ

た人になつた感じがしました。

それからは、生活も事故前とはずゞく変わりました。感情のコントロールが難しいので、出かけても大声を出したり周りに迷惑をかけてしまつから外食などあまりしなくなりました。兄中心の生活をしないといけなくなりました。最初は何でこんな事になつてしまつたのか、そろばかり考えていたけれど、今考えると兄は僕以上に苦しんでいたと思います。

兄はこの事故で失ったものが沢山あると思います。体も昔のようには動きません。学校は支援学校で、僕と一緒に学校には通つていません。本当なら一緒に自転車で登校したり学校の事を話したりしたかったです。兄は、一人にすると危ない事をしたり何をするか分からないので、いつも誰かが付き添わないといけません。だから兄は一人で過ぐる自由も失つたと思ひます。

僕たち家族は事故から六年たちました。それでも元の生活は戻つていません。事故は一瞬の出来事だけど、それが相手の一生を奪つてしまします。相手だけではなくて、家族の生活も全部変わつてしまします。僕も将来は車の免許を取る時がきます。事故は自分にも関係のある事だとこのを忘れずに慎重に運転したいです。



佳 作

安心安全の暮らしを目指して

防府市立小野中学校

一年 重田 彩葉

テレビをつけると、毎日のように映し出される事件や事故の文字と映像。涙ぐむ人。私は、そのニュースを見る度に悲しく気持ちになります。罪のない人々が事故や事件によつて命がうばわれていく姿は、もう見たくないません。それは、世界中のだれもが願つていることだと思います。でも実際「自分は大丈夫だろ?」
「このへりこなり行けんだね!」
ところかしの油断からの事故が多いのではないかと考えます。なので、だらつ運転に巻き込まれたり、自分が巻き込んだりしないよう

に、今の私ができることは何かを考えていきたじと感じます。

まあ、自転車通学のことについてです。私は、四月から中学生になりました。私の通つている中学校では、多くの生徒が自転車通学です。なので私も新しい自転車を買つてもらい、とてもわくわくしました。しかし、実際に通学してみると、細い道や坂道が多くとてもひやひやしました。しかも、小学生や車の通りが多く予想以上に大変でした。その時、学校で交通安全教室が開かれました。警察の方が、自転車通学の時に気をつけたいことなどを映像を見ながら、教えてくださいました。それからの私は、今まで以上に安全運転を心がけるようになりました。

これから、私が自転車通学で特に気をつけたじとは、主に一つです。一つは、周りをよく見て行動することです。なぜかという

と、周りを覗渡すことによつて、防げる事故が多くあると思つたからです。一つは、少しでも危険を感じたり、すぐに自転車から降りることです。特に、細い道で小学生とよくすれ違います。なので

「もしかしたら、小学生がぶつかるかもしねえ」とこの意識を常に持つて、毎日通学したいと思ひます。

次に、最近多発してくる高齢者の事故です。特に、四月に東京で起きた事故により、一人の親子の命がうばわれました。その事故の原因は、八十七歳の男性によるアクセルとブレーキのふみ間違いでした。最初私は、この事故に対しても関心がありませんでした。しかし、数日後の家族の会見を見聞きして、突然家族を失つたと思つて、あごく胸が痛くなりました。それと共に、この事故は、

決して人事ではないなと思いました。なぜなら、私の住んでいる地域は高齢者が多いからです。なので、より注意深く通学しないといけないなと思いました。

私は、これらを通して一番感じたことは、やはり少しでも運転に不安を感じたり、免許返納を考えてもらいたい」とは、それは簡単なことではなこと思います。なぜなら、私の祖父母は七十歳を超えてくるからです。ですが、今も元気に運転をしています。しかし、高齢者の事故を聞くと、安全のため免許返納をしてもらいたい気持ちもありますが、祖父母の家の近くには病院やスーパーがありません。そして、交通機関もあまりよくありません。なので、祖父母達にとつて車の運転は、生活の足となつています。だから免許を返納するのではなく、ルールを決めて車を運転したり、少しでもおかしいなと思った

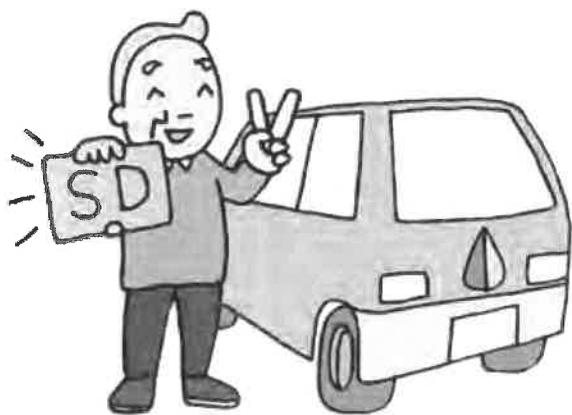
い家族に相談したりして、運転して欲しいなと思つまゆ。私も祖父母に会つた時は、

「『杖をつかず運転』しね。」

などと粗かに取り組みたことと思つまゆ。

自転車や高齢者運転の事故だけでなく、飲酒運転やあおり運転、わきみ運転などの事故もモード一コースで耳にしまゆ。一見安全に見える地域でも、身近な危険がたゞれんわんじこるいじが分かりました。なので、このよつた事件や事故に巻き込まれなつよひ、私はこれから時間にゆとりを持つて行動します。急ぐと、事故に巻き込まれたり、巻き込んだりする可能性が高くなるので、通学以外の場面でも心がけたいかりです。そして夜は、反射材をつけて外に出まゆ。なぜかところと、夜に車に乗つてみると、曲がり角で歩行者がいました。街灯はついてしまつたが、反射材をつけてこなかつたのと、ひとつも見えにく

かつたぢ。幸い事故にはなりませんでしたが、このよつたことが何度かあつたからぢ。そのじれあゞべ怖じ思つたので、夜の外出はだれぬだけひかえますが、もし外出することがあれば、必ず反射材をついたじです。他にも、私達にでれぬじとはまだたゞひてあると思つので、少しでも事件や事故が減るよう努めてこまつたじぢ。そして、安心安全の暮らしを田端してこまつたじぢ。



高齢者運転の危険性

美祢市立大嶺中学校

一年 中村 叶舵

最近テレビのニュースで高齢者の交通事故が増えているのを度々見ます。しかも、この交通事故により、たくさん的人が巻き込まれて亡くなっています。先日テレビのニュースで保育園の子ども達が公園で遊んでいる所に車が突っ込んで、保育士が子どもをかばつて右足を骨折する重傷を負う事故がありました。幸い園児にケガはありませんでした。また、小学生の登下校中や、親子で買い物中に、突っ込むなど、老せし者は増え続けています。ちゃんと歩行者専用道路を歩いていても、突然車がぶつかってくるのだから防ぎようがありません。本当に恐いです。テレビのニュースを見るたび、心が痛みます。僕は、国内で

どれくらいの高齢者の交通事故が起きていたか、これに対してどのような対策が行われているか調べてみました。

高齢者の人口十万人あたりの死者数は全年齢層の約二倍であることが分かりました。また、高齢運転者による死亡事故件数は七十五歳以上、八十歳以上でいずれも増加していることが分かりました。僕の祖父と祖母も七十五歳を超えてるので、とても心配になりました。今後も高齢運転者の数が増えていくことが予想されており、事故も増えるのではないかと心配されます。

なぜ高齢になるにつれて事故が増えるのでしょうか。それは加齢に伴い、動体視力が低下するからだそうです。動体視力とは、動くものを見る能力です。車の運転中には、信号機、道路標識、歩行者、他の車などさまざまな情報を得る必要があります。動体視力の低

下により、瞬時に複数の情報を得るのが困難になると、適切な判断、対応ができなくなるそうです。また、体の筋力の低下によるコスケが大きくなり、正確なハンドリングや、アクセル、ブレーキの操作が難しくなるのです。僕が見た交通事故の一コースの中でも、アクセルとブレーキのふみ間違によるものがありました。

そこで、高齢運転者の事故防止への行政による取り組みについて調べてみました。一つは、高齢者講習会です。七十歳以上の方は、運転免許更新時に高齢者講習が法律で義務づけられており、七十五歳以上の方は、講習の前に運転適性を調べる認知機能検査を受ける必要があります。一つは、高齢運転者標識をつけた車に運転するように努めなければならぬとされているようですが、この標識をつけた車に対し、周囲の車は安全にはつ

りよして運転しなければなりません。三つの田は、運転免許の自主返納です。身体機能低下などのため、運転に不安を感じるようになつた運転者は、免許センターや警察署に自主的に運転免許証を返納することができるのです。三つの田の、自主返納についてですが、僕の祖父と祖母も、

「返納したことだけないなあ」と言いながら、中々返納するところの判断ができるしない様子です。都会と違つて、美祢市は田舎なので、移動手段が少なく、生活する上에서도困ると書きました。免許を返納すればバスやタクシーチケットなど地域によって交通手段の特典が用意されています。ですが、バスが數十分、数時間に一本の運行だからすると、自分の都合のいい時間に合わせてでかけることができません。また、買い物を済ませて、家に帰宅するときに重たい荷物

をかかえながら歩くのは、高齢者でなくとも、相当体力が必要です。自分の家のすぐ近くにスーパーや病院などがない家庭では、歩いて移動するのは厳しいため、車を簡単には手放すことができません。人によつては、生活する上で移動手段が少なくなつたために、自宅に引きこもりがちになつて、認知症が進んでしまつたというケースも少なくないそつです。

僕の父は、自動車の修理工場で整備士をしてこます。お客様の中には何と九十さい以上の方もこなつて、

「車検の時期がきたのでお願ひできまつか。」
と来られることが、

「お体は大丈夫ですか。事故にはくれぐれも気をつけ下さいね。」と声をかけられたのです。いつも免許証を返納するのか、そのタイミングを本人の意思任せではなく、家族と話し合つ

のも重要なことだと感じました。

今後は高齢者が不自由なく毎日を樂しく過ぐことができるよう、僕達が住む市も変わつてこうところかなと思ひ、一緒に考えていくべきだと思つました。

